

平成 25 年度「全国学力・学習状況調査」における 上福島小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成 25 年 4 月 24 日（水）に、6 年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の原則として全児童生徒
- ・上福島小学校では、6 年生 17 名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語 A・算数 A】	主として「活用」に関する問題 【国語 B・算数 B】
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

上福島小学校

児童数

17

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	64.7	51.2	88.9	72.4
大阪市	59.1	46.6	75.9	56.4
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	11.4	8.2	0	1.8
大阪市	11.5	14.2	1.9	6.5
全国	10.7	13.6	1.7	6.3

結果の概要

国語では、A問題では、話すこと聞くことの領域において約8ポイントの有意差が見られる。B問題では、書くことの領域で7ポイント、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項で20ポイント以上の有意差が見られる。B問題での有意差は、2領域にかかる1問において条件に応じて書くことができなかつたための誤答と分析できる。したがって、書くことの領域での有意差を課題としてとらえていきたい。
算数では、A問題、B問題どちらにおいてもすべての領域において全国平均を10ポイント程度上回っている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

国語では、習熟度別少人数指導の導入により、より丁寧な指導を進めていることで、国語に関する児童質問紙のどの項目においても肯定的な回答が全国平均を上回っている。ただ、上記の結果の概要でも述べているように、話すこと、聞くことの領域、書くことの領域において、さらに改善するべき課題がある。
算数では、結果の概要でも示したように、習熟度別少人数指導(TT、少人数を含む)の成果は十分にあがっていると言える。領域別にみたとき、全国や大阪市同様にA問題では量と測定、B問題では数量関係で若干正答率が低くなっているところが課題である。

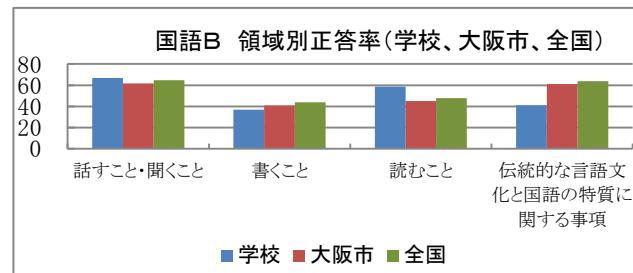
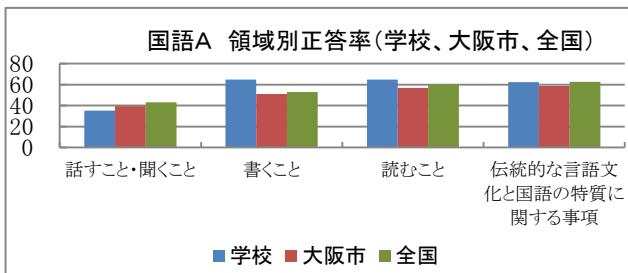
【国語】

結果の概要

A問題では、話すこと聞くことの領域において約8ポイントの有意差が見られる。B問題では、書くことの領域で7ポイント、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項で20ポイント以上の有意差が見られる。B問題での有意差は、2領域にかかる1問において条件に応じて書くことができなかつたための誤答と分析できる。したがって、書くことの領域での有意差を課題としてとらえていきたい。

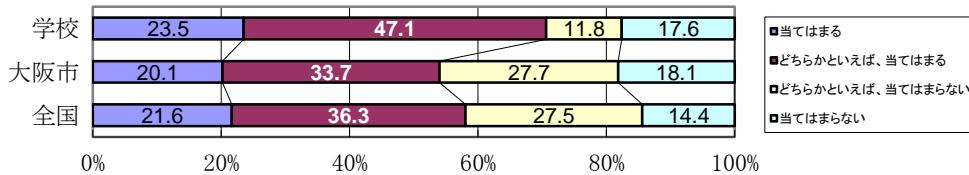
A 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	35.3	39.5	43.2
	書くこと	4	64.7	51.1	53.0
	読むこと	3	64.7	56.8	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	62.4	58.7	62.6

B 問 題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	66.7	61.7	64.8
	書くこと	4	36.8	41.0	43.8
	読むこと	4	58.8	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	41.2	61.0	63.8

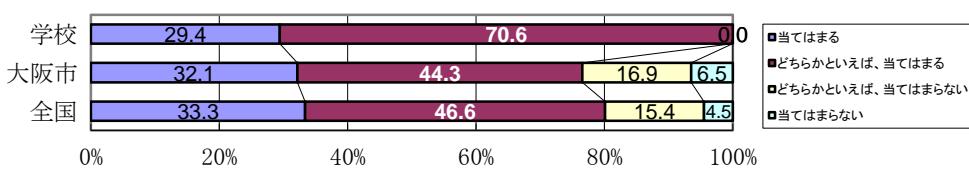


国語に関する「児童質問紙」

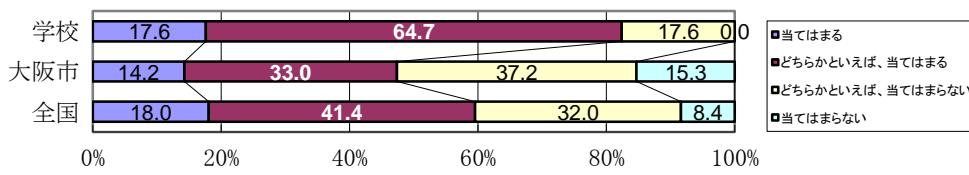
I 53	II 52	III 62
国語の勉強は好きですか		



I 55	II 54	III 64
国語の授業の内容はよく分かりますか		



I 58	II 57	III 67
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか		



I 60	II 59	III 69
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるよう気を付けて書いていますか		



成果と課題

習熟度別少人数指導の導入により、より丁寧な指導を進めていることで、国語に関する児童質問紙のどの項目においても肯定的な回答が全国平均を上回っている。ただ、上記の結果の概要でも述べているように、話すこと、聞くことの領域、書くことの領域において、さらに改善するべき課題がある。

今後の取組

児童は、ある話型など決まった形式にあてはめたスピーチについて多く経験している。また、考えをまとめて書く際にも、ワークシートなどに記述することは多く経験している。しかし、目的に応じて工夫してスピーチしたり、自分が調べたことをわかりやすく伝えるためにまとめたりする活動などは十分とは言えない。今後、そのような活動を適宜取り入れながら、話す、聞く、書くといった言語表現においての指導をさらに充実していきたい。

【算数】

結果の概要

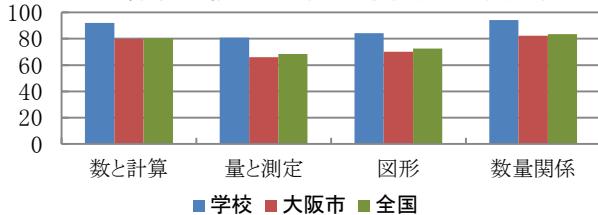
算数に関しては、A問題、B問題どちらにおいてもすべての領域において全国平均を10ポイント程度上回っている。算数に関する児童質問紙においても、すべての項目で肯定的な回答が全国の平均を上回っている。これは、算数の全授業で習熟度別少人数指導(TT、少人数を含む)を実施した成果であるととらえることができる。

A問題

平均正答率(%)

	数と計算	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と計算	8	91.9	79.8	80.2
	量と測定	4	80.9	66.0	68.3
	図形	3	84.3	70.2	72.5
	数量関係	4	94.1	82.2	83.4

算数A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

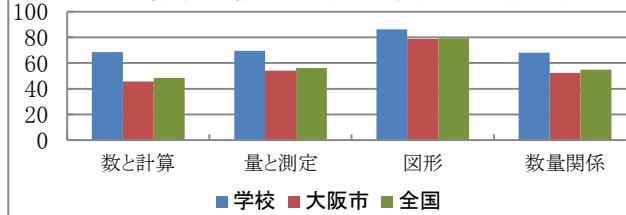


B問題

平均正答率(%)

	数と計算	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	数と計算	3	68.6	45.7	48.3
	量と測定	7	69.7	54.1	56.0
	図形	3	86.3	78.8	79.3
	数量関係	7	68.1	52.4	54.9

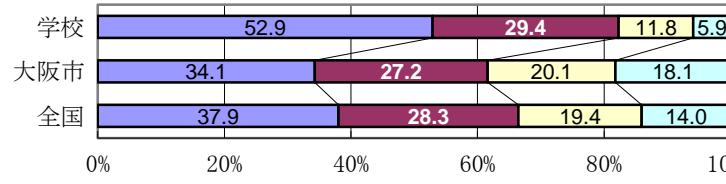
算数B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



算数に関する「児童質問紙」

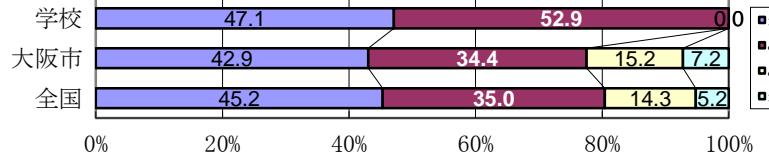
I 73 II 62 III 72

算数の勉強は好きですか



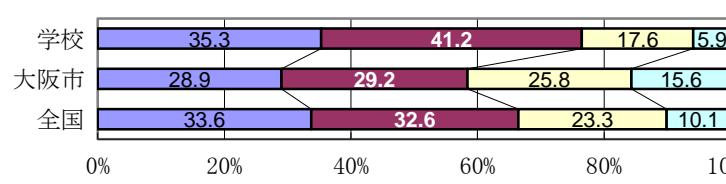
I 75 II 64 III 74

算数の授業の内容はよく分かりますか



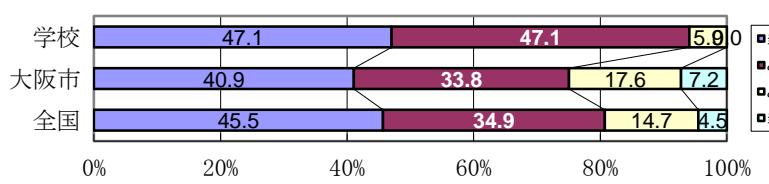
I 78 II 67 III 77

算数の授業で学習したこと を普段の生活の中で活用 できぬいか考えますか



I 81 II 70 III 80

算数の授業で公式やまり を習うとき、そのわけを理解 するようにしていますか



成果と課題

結果の概要でも示したように、習熟度別少人数指導(TT、少人数を含む)の成果は十分にあがっていると言える。領域別にみたとき、全国や大阪市同様にA問題では量と測定、B問題では数量関係で若干正答率が低くなっているところが課題である。

今後の取組

習熟度別少人数指導をさらに充実させていく。また、学習内容を定着発展させるとともに、活用場面を取り入れた授業展開も工夫していきたい。

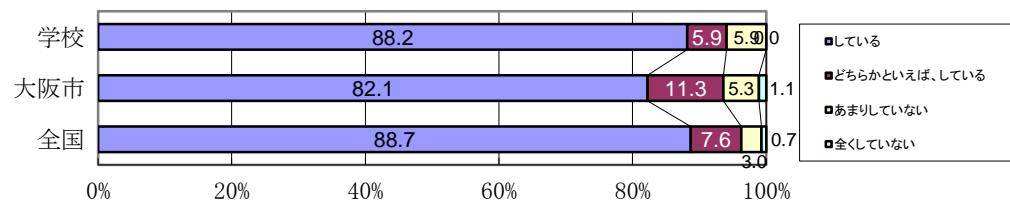
基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

結果の概要

自尊感情及び規範意識の事項において、肯定的な回答が全国、大阪市を下回っている。本校は、真面目で誠実な児童が多く、自分たちの行動を厳しく自己評価した結果ではないかと考える。集会等での発表の様子を見ても自信をもち、進んで取り組めているし、確かに廊下階段を走っている児童は少なからずいるが、ルールを守れないわけではない。指導者側の声掛けによっても、自尊感情は高まるといえるので、今できていることにもっと自信を持たせていきたい。

質問番号	質問事項
------	------

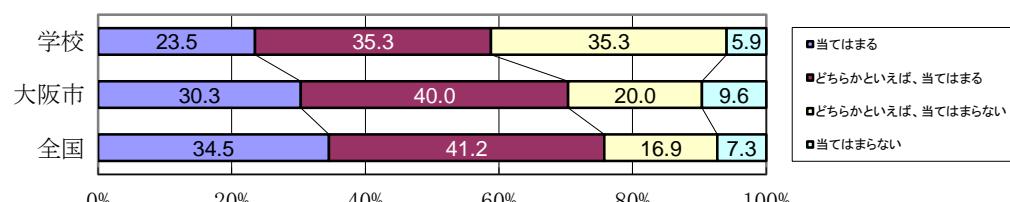
I 1	II 1	III 1
朝食を毎日食べていますか		



I 2	II 2	III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		



I 6	II 6	III 6
自分には、よいところがあると思いますか		



I 44	II 41	III 44
学校のきまりを守っていますか		



成果と課題

基本的な生活習慣については、家庭の協力のもと概ねできているといえる。自尊感情、規範意識については、ポイントが下がっている点において課題が見られる。しかし、現実的にはとても真面目で誠実な児童である。指導者側が、できたことをしっかり認識させていくこと、守れたことをしっかり伝えていくことが課題である。

今後の取組

生活振り返り週間や食育指導などで、さらに基本的な生活習慣の充実に努める。また、集会や授業での発表等の場面において、できしたこと成功したことを適宜褒めることで自信が持てるよう支援する。そして、指導者側での呼びかけだけではなく、児童会でも取り組むことで、お互いにルールを守ろうとする意識を高めていくような取り組みを推進する。

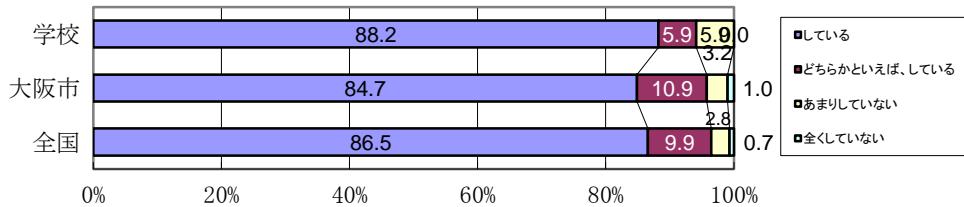
家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

結果の概要

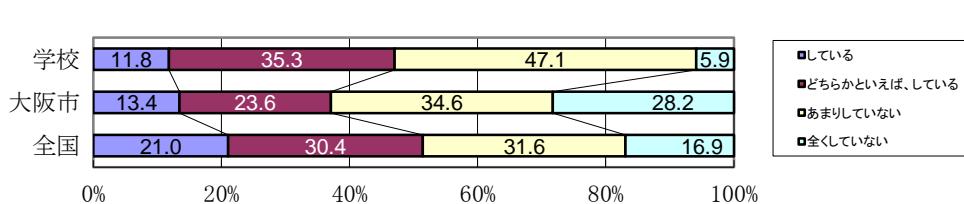
宿題、復習といった家庭学習については、若干ポイントが低いものの有意差はないといえる。しかし、読書においては13ポイントも低く、さらに取り組む必要があると考える。学びについては、いずれの事項も全国平均を上回っている。現在、毎週1回朝の学習の時間に、読書タイムを設けたり、図書館を休み時間に開放したりしているが、今後さらに意識を高める取り組みを工夫していきたい。

質問番号 質問事項

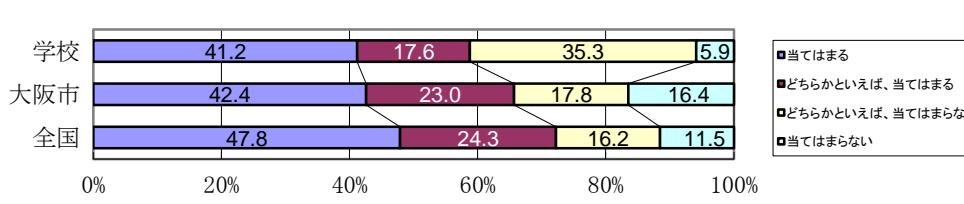
I 30 II 25 III 35 家で、学校の宿題をしていますか



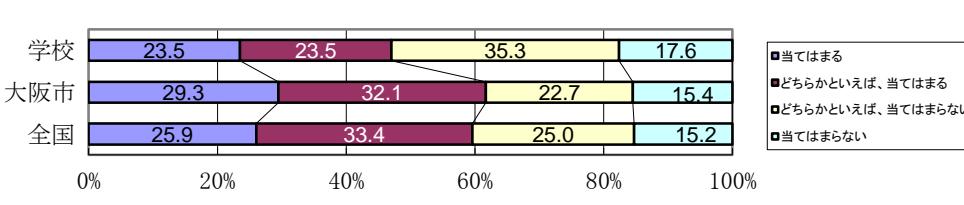
I 32 II 27 III 37 家で、学校の授業の復習をしていますか



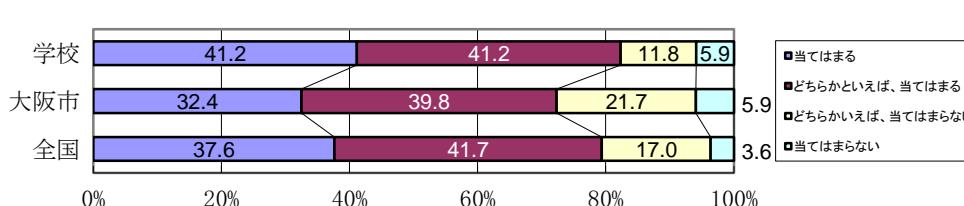
I 56 II 55 III 65 読書は好きですか



I 52 II 51 III 60 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 56 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



成果と課題

学びについては、少人数のよさもあり友達と学び合う集団づくりができているといえる。しかし、家庭学習については、若干低く、自分で課題意識をもって取り組める家庭学習を工夫していく必要がある。また、読書については、継続した取り組みと、さらに意欲を喚起する新たな取り組みを計画していく必要がある。

今後の取組

家庭学習については、Web問題データベースを有効に活用しながら、児童がより課題意識をもって取り組めるようにする。また、読書については、図書館の蔵書をさらに充実し、図書の時間等を活用しながら本の紹介を今以上に推進する。また、お互いの読書量を交流する場を設定するなど、読書意欲を高める工夫をしていく。